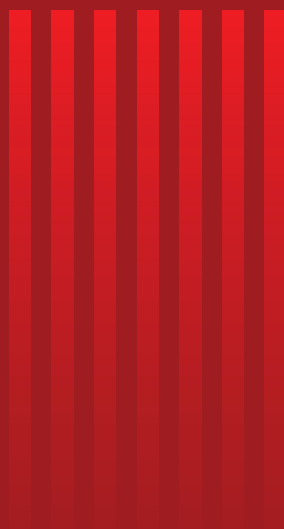




OCVB 創立70周年記念

# 沖縄観光 & OCVB 70年の歩み

Okinawa Tourism & OCVB  
70 years of progress





## 挨拶

一般財団法人  
沖縄観光コンベンションビューロー 会長

### 下地 芳郎

平素より一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー（OCVB）の活動にご支援とご協力を賜り心から感謝申し上げます。

1954(昭和29)年に、沖縄の観光振興を目的とする任意団体沖縄観光協会が設立され、今年で70周年を迎えることになりました。当時は全国各地から「慰霊訪問団」の増加により受け入れ体制の強化が求められていました。日本は戦後復興期から高度経済成長期に向かう時期であり、観光事業も注目を集めており、米軍占領下の沖縄においても自然や独特な文化を活用した観光に取り組むことが外貨獲得につながるという意識が高まっていました。

こうした黎明期を経て、本土復帰以降、沖縄国際海洋博覧会開催、観光インフラ整備、官民連携キャンペーン、首里城復元などを経て沖縄観光は大きく成長を遂げ、国際的な観光リゾート地として認知度が高まってきました。これまで沖縄観光の発展に尽力されたすべての関係者に心からの敬意を表します。

沖縄観光は2020年から新型コロナウイルスの世界的流行による未曾有の危機を経て、新たな時代を迎えています。OCVBは、質の高い観光の推進に取り組み、社会・経済・環境のバランスが取れた「世界から選ばれる持続可能な観光地」を目指してまいります。

令和6年7月



## 沖縄観光コンベンションビューロー 70周年に寄せて

一般社団法人  
那覇市観光協会 会長

### 宮里 一郎

謹んで、一般財団法人沖縄観光コンベンションビューローが創立70周年を迎えましたことをお慶び申し上げます。

昭和29年に一般社団法人那覇市観光協会の前身である沖縄観光協会が設立され、時代の流れの中、幾多の試練に耐えつつ沖縄観光の振興発展に共に尽くし歩んできたことを大変嬉しく思っております。

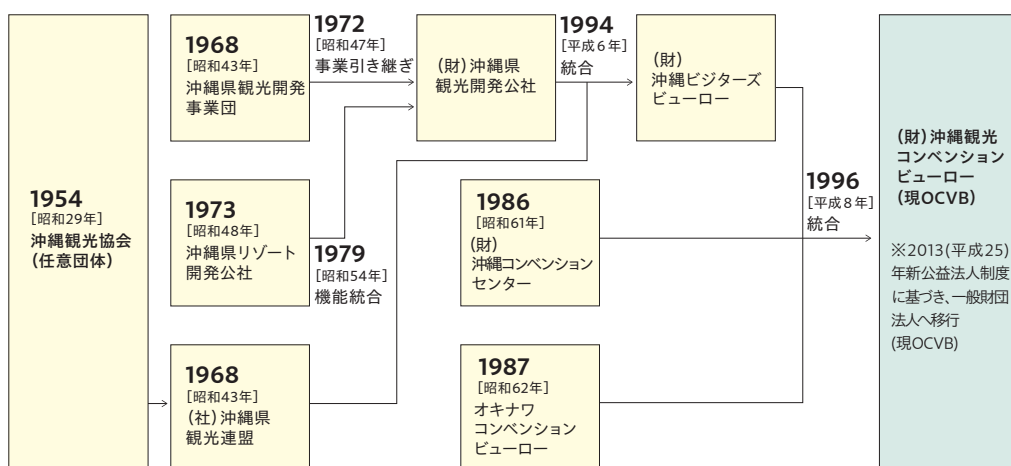
沖縄の観光業は、ここ数年の新型コロナウイルスの影響を強く受け、大きなダメージを受けました。しかしながら、昨年県内イベントの通常開催、各種の需要喚起策が功を奏して国内観光客の需要が回復してきています。また、外国人客についても、水際対策等が大幅に緩和され回復基調にあり、沖縄観光の新たなステージを迎えることが出来るものと感じております。

これから10年の沖縄観光は更なる飛躍が可能となる時期となっており、今後とも貴法人が沖縄観光を牽引するリーダーとしてのご活躍を大きく期待するものであります。

結びに、貴法人の益々のご繁栄と関係者の皆様のご活躍を祈念いたしまして、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

令和6年7月

## 一般財団法人 沖縄観光コンベンションビューロー組織変革



## 一般財団法人 沖縄観光コンベンションビューロー歴代会長



初代  
当間重剛  
1954—1958



2代  
大田政作  
1958—1966



3代  
松岡政保  
1966—1968



4代  
高良 一  
1968—1970



5代  
宮里定三  
1970—1988



6代  
西銘順治  
1988—1990



7代  
大田昌秀  
1990—1998



8代  
稲嶺恵一  
1998—2003



9代  
饒波正之  
2003



10代  
松本行雄  
2003—2005



11代  
仲吉朝信  
2005—2007



12代  
平良 哲  
2007—2011



13代  
安里繁信  
2011—2013



14代  
上原良幸  
2013—2015



15代  
平良朝敬  
2015—2019



16代  
下地芳郎  
2019—

# History

年表と写真で見る「沖縄観光」70年のあゆみ  
70years of Okinawa Tourism Industry

## 1954年 ≫ 1973年 第二次世界大戦後～沖縄本土復帰まで

### 1954 [昭和29年]

- ジュネーブ会議
- 日本航空(JAL)羽田-那覇線 開設



提供: 日本航空

### 1958 [昭和33年]

- 東京タワー 設立
- ヨーロッパ経済共同体(ECC) 結成
- B円からドルへ通貨切替



提供: 那覇市歴史博物館

- 沖縄ツーリスト株式会社 設立



提供: 沖縄ツーリスト株式会社

### 1962

- [昭和37年]
- 首都高速道路 1号線 開通
  - キューバ危機

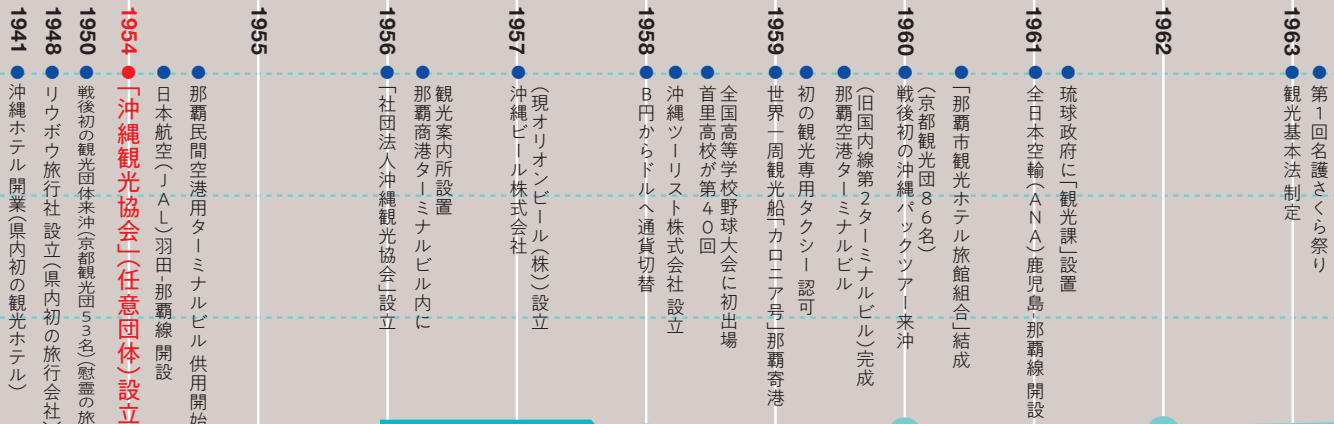
### 1955 [昭和30年]

- 西ドイツ NATO加盟

# 1954 1960

History  
70years of  
Okinawa Tourism  
Industry

1,000 (万人)  
500 (万人)  
250 (万人)



沖縄の観光客数(万人)

1.9

2.0

3.8

### 1945 [昭和20年]

- 第二次世界大戦終戦

### 1941 [昭和14年]

- 沖縄ホテル 開業 (県内初の観光ホテル)



提供: 有限会社沖縄ホテル

### 1905 [明治38年]

- 日本旅行創業 (国内初の旅行社)

### 1956

[昭和31年]

- 日本国際連合 加盟
- 日ソ国交回復

### 1959 [昭和34年]

- 皇太子さま、美智子さまご結婚
- 安保闘争
- キューバ革命
- 世界一周観光船 「カロニア号」那覇寄港



提供: 沖縄県公文書館

### 1961

[昭和36年]

- ドイツベルリンの壁建設
- 全日本空輸(ANA) 鹿児島-那覇線 開設



提供: 全日本空輸

### 1960 [昭和35年]

- ローマ五輪
- OPEC 結成

- 沖縄観光の動き
- OCVBの動き
- 日本の動き
- 世界の動き

※主な動きのみを掲載しています

## 1963 [昭和38年]

- 第1回 名護さくら祭り



提供:沖縄県公文書館

## 1965 [昭和40年]

- 日韓基本条約 締結
- ベトナム戦争

## 1968

[昭和43年]

- 小笠原諸島 日本復帰

## 1969

[昭和44年]

- ジャンボジェット 登場
- アポロ11号月面着陸

## 1970 [昭和45年]

- 日本万国博覧会(大阪万博)開催
- 初の国産人工衛星打ち上げ成功
- よど号ハイジャック事件
- 核拡散防止条約 発効

- 旧海軍司令部壕 営業開始



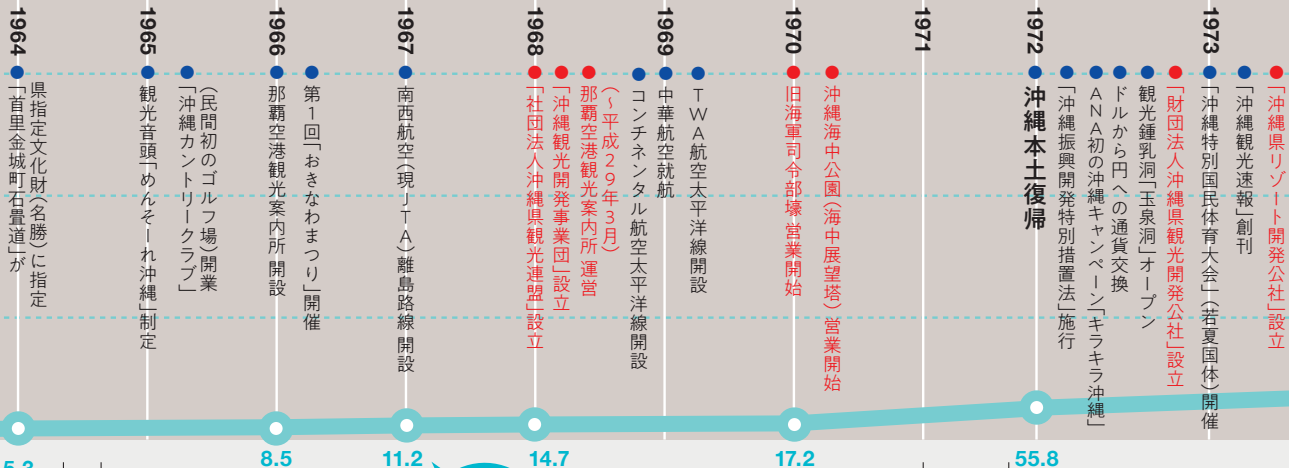
- 沖縄海中公園(海中展望塔) 営業開始



## 1973 [昭和48年]

- 変動為替相場制へ移行
- 第一次石油ショック
- 第四次中東戦争

# 1970



History  
70years of  
Okinawa Tourism  
Industry

1964  
≡  
1973

5.3

## 1966 [昭和41年]

- いざなぎ景気(～昭和45年)
- ザ・ビートルズ 来日
- 中国文化大革命

- 第1回「おきなわまつり」開催



提供:沖縄県公文書館

## 1964 [昭和39年]

- 東海道新幹線 開通
- 東京オリンピック・パラリンピック 開催
- 海外渡航自由化

年計  
10万人を  
突破!

## 1967 [昭和42年]

- 公害対策基本法 制定
- 第三次中東戦争
- 東南アジア諸国連合(ASEAN) 設立
- ヨーロッパ共同体(EC) 発足
- 南西航空(現JTA) 離島路線開設



提供:日本トランスオーシャン航空

## 1971 [昭和46年]

- 沖縄返還協定 調印
- 中華人民共和国 国連参加

55.8

## 1972 [昭和47年]

- 札幌五輪
- 日中国交正常化
- ニクソン訪中、共同声明発表
- ウォーターゲート事件

- 沖縄本土復帰



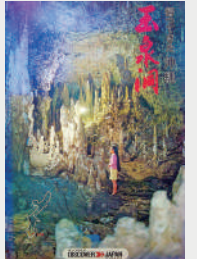
提供:沖縄県公文書館

- ドルから円への通貨交換



提供:那覇市歴史博物館

- 観光鍾乳洞「玉泉洞」オープン



提供:株式会社南都

※1971年までの観光客数は暦年で表示しています。

# 1974年 ≫ 1993年

## 本土復帰後～観光地沖縄としての 認知度UPの時代

### 1975 [昭和50年]

- ベトナム戦争 終結
- 「沖縄国際海洋博覧会」開催



〔写真集那覇百年のあゆみ〕より  
提供:那覇市歴史博物館



海洋博PR団出発式(1974年)  
提供:沖縄県公文書館

- ホテルムーンビーチ(現:ザ・ムーンビーチミュージアムリゾート)開業  
(県内初のリゾートホテル)



提供:株式会社 国建

### 1979 [昭和54年]

- 東京サミット
- ソ連 アフガニスタン侵攻
- 第二次オイルショック
- 米中国交 樹立

### 1980 [昭和55年]

- イラン・イラク戦争

### 1981 [昭和56年]

- ローマ法王初来日
- ミス沖縄選出開始



### 1982 [昭和57年]

- 東北新幹線開通
- テレホンカード登場

# 1980

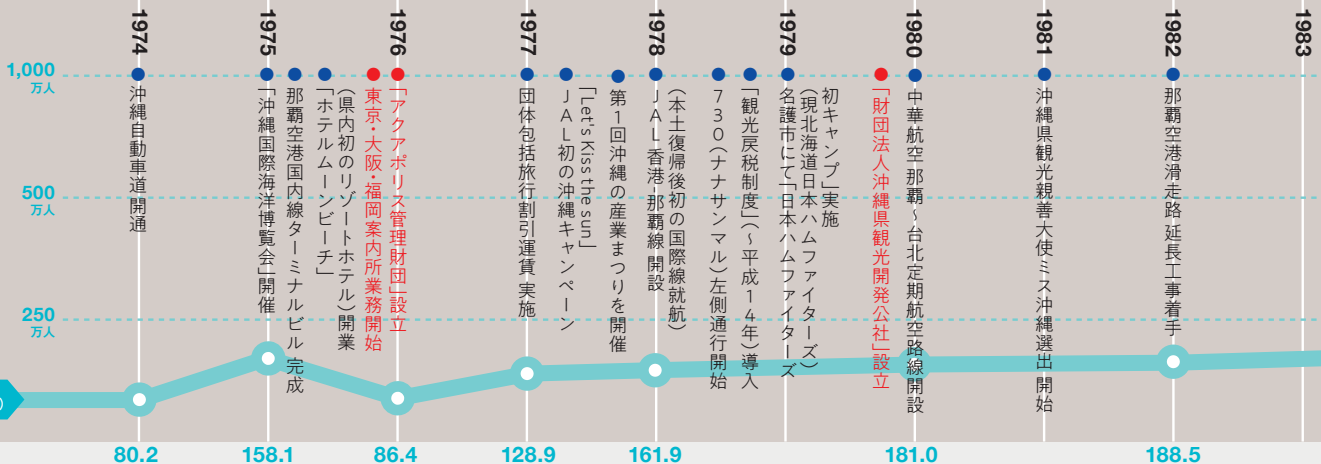
## History 70years of Okinawa Tourism Industry

1974

≫

1983

沖縄の観光客数(万人)



### 1977 [昭和52年]

[昭和52年]

- 日本初の静止衛星打ち上げ成功
- JAL初の沖縄キャンペーン

「Let's Kiss the sun」



提供:日本航空

### 1976 [昭和51年]

[昭和51年]

- ロッキード事件

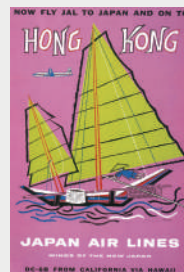
### 1974 [昭和49年]

- 佐藤元首相ノーベル平和賞受賞

### 1978 [昭和53年]

[昭和53年]

- 日中平和友好条約 調印
- 新東京国際空港 開港
- JAL香港-那覇線 開設(本土復帰後初の国際線就航)



1955年ポスター 提供:日本航空

- 730(ナナサンマル)左側通行開始



提供:那覇市歴史博物館

### 1983 [昭和58年]

[昭和58年]

- ロッキード事件  
田中元首相に  
実刑判決

## 1984 [昭和59年]

- 新札発行(1万円、5千円、千円)
- 第1回「花のカーニバル」開催



1987年ポスター

## 1987 [昭和62年]

- テンミリオン計画(5年以内に日本人の海外渡航者数を1000万人にするという目標)
- 沖縄コンベンションセンター展示棟供用開始



- 「第42回国民体育大会」(海邦国体)開催(県内初開催)



提供:那覇市歴史博物館

## 1991 [平成3年]

- バブル経済崩壊
- ゴルバチョフ大統領初来日
- 湾岸戦争
- ソ連邦解体、ロシア連邦成立

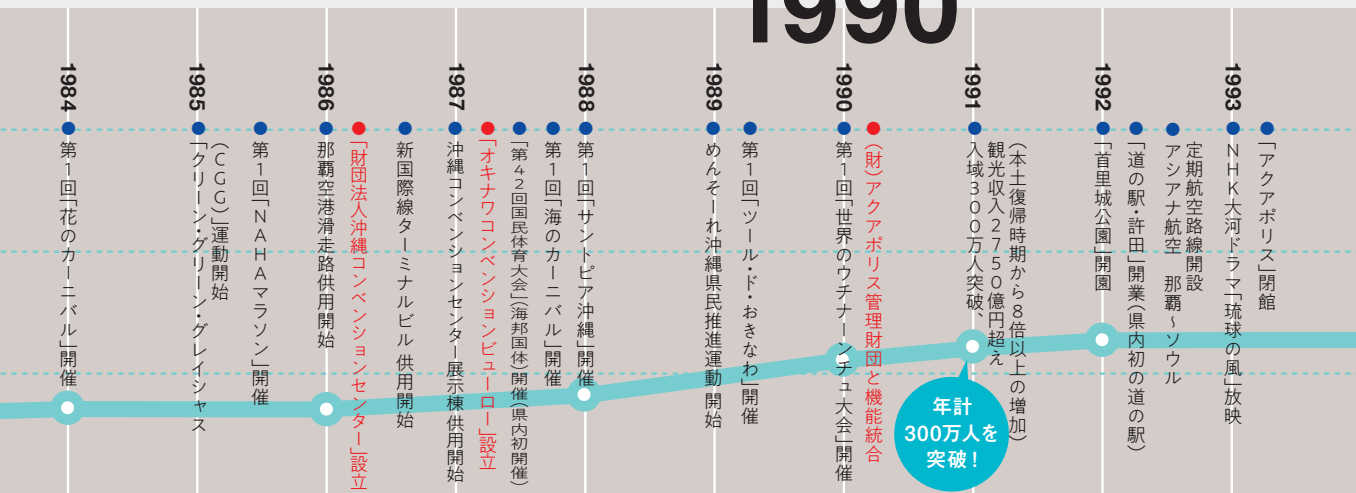
## 1992 [昭和67年]

- 「首里城公園」開園



提供:首里城公園

# 1990



History  
70years of  
Okinawa Tourism  
Industry

1984  
≡  
1993

年計  
300万人を  
突破!

## 1986 [昭和61年]

- チャールズ皇太子ダイアナ妃来日
- チェルノブイリ原発事故

## 1985 [昭和60年]

- プラザ合意
- つくば科学万博



2002年ポスター

## 1988 [昭和63年]

- 第1回「サントピア沖縄」開催
- イラン・イラク戦争 停戦

## 1989 [昭和64年/平成元年]

- 消費税3%開始
- 冷戦終結宣言
- 天安門事件
- ベルリンの壁崩壊
- 全日本空輸(ANA)那覇-石垣線 開設



提供:全日本空輸

- 第1回「ツール・ド・おきなわ」開催



提供:NPO法人ツール・ド・おきなわ協会

## 1990 [平成2年]

- 日本人初の宇宙飛行
- 東西ドイツ統合
- 第1回「世界のウチナーンチュ大会」開催



提供:沖縄県

## 1993 [平成5年]

- 皇太子さま・雅子さまご結婚
- レインボーブリッジ 開通
- 欧州連合(EU) 設立

# 1994年 ≫ 2013年

## 観光地沖縄としての認知度UPの時代～ 沖縄観光発展時代

### 1994 [平成6年]

- 松本サリン事件
- 北海道東方沖地震

### ● (財)沖縄ビクターズビューローと 台湾観光協会が「観光協力に 関する協定書」締結



### 1996 [平成8年]

- 日米安保共同宣言

### 1997 [平成9年]

- 消費税5%
- 香港返還

### 1998 [平成10年]

- 長野オリンピック

### 1999 [平成11年]

- ITバブル
- 那覇空港国内線  
新旅客ターミナルビル落成



提供:那覇空港ビルディング株式会社

### 2003 [平成15年]

- イラク戦争
- SARS猛威
- 沖縄都市モノレール全線開業



提供:沖縄県



提供:沖縄都市モノレール株式会社

# 2000

### History 70years of Okinawa Tourism Industry

1994  
≫  
2003

沖縄の  
観光客数(万人)



年計  
400万人を  
突破!

Year	Event
1994	● (財)沖縄ビクターズビューローと台湾観光協会が「観光協力に関する協定書」締結
1995	● 「大琉球まつり大団」開催
1996	● 「美ら島おきなわ観光宣言」 ● 韓国事務所、台北事務所開設
1997	● 「美ら島おきなわ観光宣言」 ● 「沖縄観光コンベンション」開催
1998	● 「美ら島おきなわ観光宣言」 ● 「沖縄観光コンベンション」開催
1999	● 那覇空港国内線新旅客ターミナルビル落成 ● 沖縄尚学高校初優勝 ● 第71回選抜高校野球大会
2000	● 「第26回主要国首脳会議」(九州・沖縄サミット)開催
2001	● 「だいたいようぶさー沖縄」キャンペーン ● NHK連続テレビ小説「ちゅらさん」放送 ● 沖縄観光PR大使「花笠マハエ」誕生
2002	● 「沖縄美ら海水族館」開業
2003	● 「Re 沖縄」キャンペーン展開 ● 「沖縄アウトレットモール・あしびなー」開業

### 1995 [平成7年]

- 阪神淡路大震災
- 地下鉄サリン事件
- 「美ら島おきなわ観光宣言」

美ら島おきなわ観光宣言

ここ沖縄は、古代からアジア大陸と海洋上に連なる多くの国々を結ぶ十字路であり、東西南北の文化や風土が交流し、時として、諸国の激動する歴史が激しい試練を与えてきた。その中であらゆる人々は、温かい気持で異文化と向き合い、それを受け入れ、しかし、自らを失わず高貴な心によって、活力あふれる伝統文化を創造した。

人間の情かもしとやさしさを長けてきたサンゴの海神々の祝福の上と豊かな自然文化を贈るできた島々を愛け！ 清ら 爽け！ 美らさ と麗えられたこの美しい風土豊饒の海に情が湧き 赤穂の大地に草木は舞う生きとどけるものの上、太陽は輝きおだやかに時間は流れる

いつの時代にも私たちが先人は、しなやかに、したたかに生きてきた。私たちが、この島に受け継いだことをなげき、心と心のふれあいを大切に、何より生命をいとおぼむ。

ここは太陽と海に満ちあふれる人がやさしくなれる結したる琉球島 天に響く三響打ら鳴らす太鼓 大地を渡るがす運動のリズム 勇壮あふれる空手に誇り ハッピー 網球者 そして 華麗至宝の王朝文化 若いも若きも明眼開運 健康いっぱい、長寿万歳

私たちは、この豊かな自然と独特の歴史・文化の恵みを受け、新しい世紀に向けて自立の精神をたくみ、寛容と共生の社会をめざす。 かつて、文豪もって百国の津波とした島人に学び、観光をもつて平和・友好の架け橋とし、遊覧の心に満ちた、住みよい豊かな美ら島おきなわづくりに努めることを新たに決意し、ここに宣言する。

1995年10月1日 沖縄県知事大田昌秀

### 2000 [平成12年]

- 2000円札発行
- 「第26回主要国首脳会議」(九州・沖縄サミット)開催



提供:首里城公園

### ● 沖縄観光PR大使 「花笠マハエ」誕生



### 2002 [平成14年]

- 学校週5日制導入
- 日韓ワールドカップ
- 北朝鮮拉致被害者 帰国
- アフリカ連合 発足
- EURO発足
- 「沖縄美ら海水族館」開業



提供:国営沖縄記念公園(海洋博公園)・沖縄美ら海水族館

### 2001 [平成13年]

- アメリカ同時多発テロ
- アフガニスタン紛争
- 「だいたいようぶさー沖縄」キャンペーン



提供:日本トランスオーシャン航空



## 2005 [平成17年]

- 郵政民営化
- 「日本国際博覧会」(愛・地球博)開催
- 中部国際空港 開港

## 2006 [平成18年]

- 神戸空港 開港
- ライブドアショック
- 観光タクシー乗務員資格認定制度 開始



## 2007 [平成19年]

- 新潟県中越沖地震 ● 能登半島地震
- 「沖縄観光バリアフリー」宣言

沖縄 観光バリアフリー宣言  
～「誰もが楽しめる、やさしい観光地」を目指して～

沖縄県は、ご高齢の方や障がいのある方、妊娠されている方、小さなお子様を連れての方、外国の方はもちろん、本県に來訪されるすべての方々、そしてすべての県民、誰もが楽しめる、やさしい観光地を目指しています。その実現に向けて、次に掲げる観光のバリアフリー化に、強力に取り組んでいきます。

- 1 私たちは、美しい海と豊かな自然、独自の文化など沖縄の魅力をいつでも、誰でも楽しめるように、移動のバリア、情報のバリア、言葉のバリア、心のバリアなどすべてのバリアを取り除くことに取り組んでいます。
- 2 私たちは、様々なバリアの存在について理解を深め、それをなくすためには、どうすればよいか、みんなで考えていきます。
- 3 私たちは、行政や観光に携わる者だけでなく、すべての県民が手を携え、できることから1つずつバリアを取り払っていきます。

以上、ここに宣言します。

平成19年2月14日 沖縄県知事 仲井真弘多

## 2010 [平成22年]

- ユーロ危機

## 2011 [平成23年]

- 東日本大震災
- 地上デジタルテレビ放送 開始
- 国際宇宙ステーション 完成

## 2012 [平成24年]

- 東京スカイツリー 開業

## 2013 [平成25年]

- 2020年 東京オリンピック・パラリンピック決定
- 「南ぬ島石垣空港」開港



# 2010

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	
● 沖縄フィルムオフィス設立	● 「国立劇場おきなわ」開業	● 「DFSギャラリー・沖縄」開業	● 第1回「琉球海炎祭」開催	● 古宇利大橋が開通(全長1960m)	● 米州開発銀行(IDB)第46回年次総会で約7000名が参加	● 米州開発銀行(IDB)第46回年次総会で約7000名が参加	● 米州開発銀行(IDB)第46回年次総会で約7000名が参加	● 米州開発銀行(IDB)第46回年次総会で約7000名が参加	● 米州開発銀行(IDB)第46回年次総会で約7000名が参加	● 米州開発銀行(IDB)第46回年次総会で約7000名が参加

**History**  
70years of  
Okinawa Tourism  
Industry

2004  
≡  
2013

517.1 570.5

## 2004 [平成16年]

- 新潟県中越地震
- 日朝首脳会談
- 「国立劇場おきなわ」開業



提供:国立劇場おきなわ

- 「DFSギャラリー・沖縄」開業

593.4 570.5

## 2008 [平成20年]

- 裁判員制度 開始
- 新型インフルエンザ流行
- 第1回「沖縄国際映画祭」開催
- 沖縄国際物流ハブ(ANA沖縄貨物ハブ)稼働
- リーマンショック

592.4

## 2009 [平成21年]

- 裁判員制度 開始
- 新型インフルエンザ流行
- 第1回「沖縄国際映画祭」開催
- 沖縄国際物流ハブ(ANA沖縄貨物ハブ)稼働



提供:ANA Cargo

2014 [平成26年]

- デング熱 流行
- ウクライナのクリミア ロシア併合
- ISIL (ISIS) 樹立宣言

2015 [平成27年]

- 欧州難民危機
- バリ同時多発テロ
- 米キューバ 国交回復
- 伊良部大橋が開通(全長3540m)



2019 [平成31年/令和元年]

- ラグビーワールドカップ 開催
- 天皇 生前退位 年号が「令和」へ
- ノートルダム大聖堂で大火災

- 首里城火災(正殿を含む9棟)



首里城大火災の中でも奇跡的に焼け残った一対の「大龍柱」を首里城再建のシンボルとして、首里城正殿とともに中央にレイアウトし、「あの美しい首里城をもう一度」という願いを込め作成

- ゆいレールでだこ浦西駅まで延伸



提供: 沖縄都市モノレール株式会社

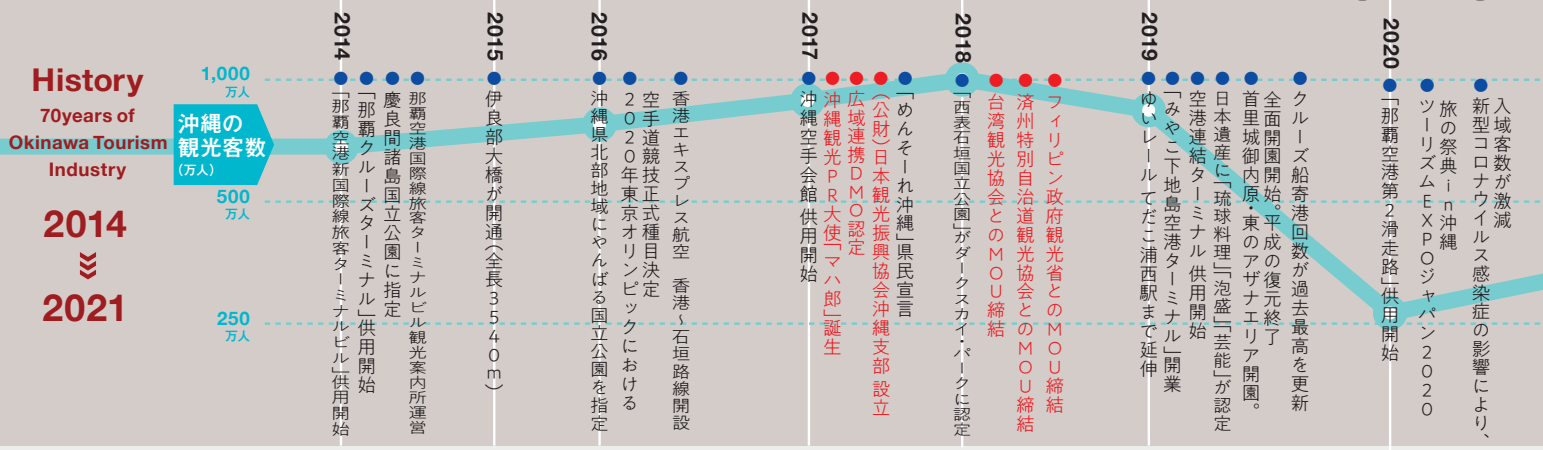
2020 [令和2年]

- 英国がEU離脱
- 新型コロナウイルス世界的大流行
- 新型コロナウイルス感染症 国内で感染拡大
- 「那覇空港第2滑走路」供用開始



提供: 沖縄総合事務局

2020



2016 [平成28年]

- 北海道新幹線 開通
- イギリスEU離脱国民投票
- 台湾地震
- 2020年東京オリンピックにおける空手道競技正式種目決定



2017 [平成29年]

- 沖縄空手会館 供用開始



- 沖縄観光PR大使「マハ郎」誕生



2018 [平成30年]

- 仮想通貨流出事件
- 大阪府北部地震
- 北海道胆振東部地震
- 麻しん流行
- 南北首脳会談
- 米朝首脳会談

● ツーリズムEXPO  
ジャパン2020旅の  
祭典in沖縄



提供:ツーリズムEXPOジャパン推進室

● コロナ禍の取組

- ・おきなわ彩発見キャンペーン事業
- ・那覇空港に旅行者専用相談センター(TACO)設置
- ・おきなわ彩発見キャンペーン(第2弾)
- ・おきなわ彩発見バスツアー促進事業
- ・那覇空港にPCR検査プロジェクト(NAPP)を設置
- ・おきなわ彩発見キャンペーン(第3弾)
- ・おきなわ彩発見キャンペーン(第4弾)
- ・那覇空港 国際線再開
- ・おきなわ彩発見NEXTキャンペーン事業(第1期)

2023 [令和5年]

- ハマスによるイスラエルへの越境攻撃／イスラエル軍によるガザへの侵攻
- 新型コロナウイルス5類への移行
- 2023WORLD BASEBALL CLASSIC日本優勝

● Bリーグ 琉球ゴールデンキングス優勝

● 沖縄都市モノレール  
3両編成の運行開始

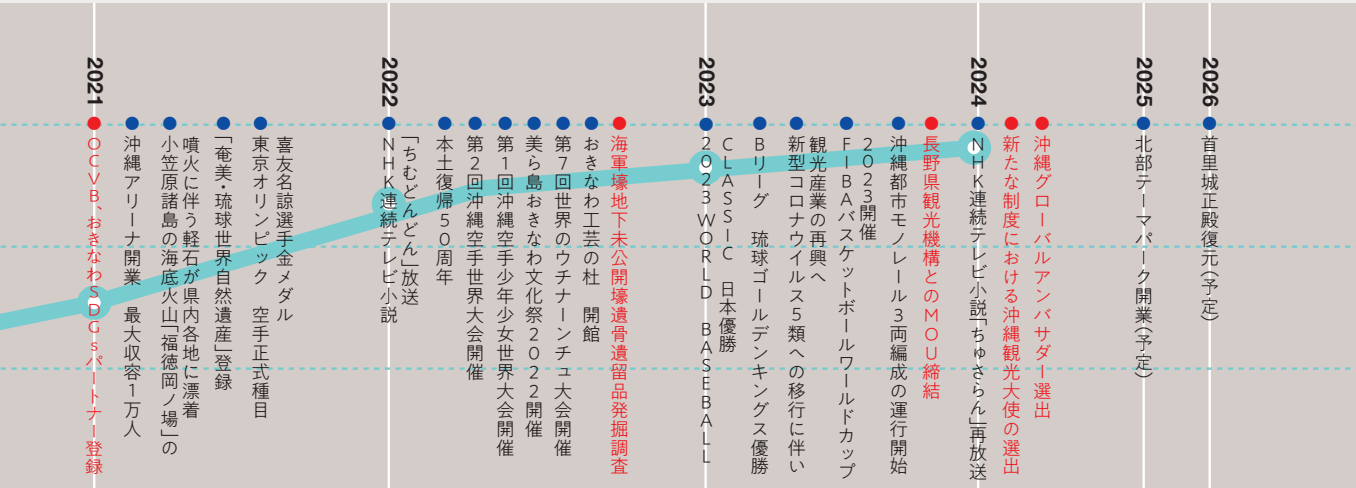


提供:沖縄県

● FIBAバスケットボール  
ワールドカップ2023開催



提供:©FIBA



History  
70years of  
Okinawa Tourism  
Industry

2022

2021 [令和3年]

- 東京オリンピック・パラリンピック開催
- 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島が世界自然遺産登録



提供:K.P.V.B./OCVB

2022 [令和4年]

- ロシアによるウクライナ侵攻
- NHK連続テレビ小説「ちむどんどん」放送
- 海軍壕地下未公開壕遺骨遺留品発掘調査



2024 [令和6年]

- 能登半島地震 ● 円安加速
- NHK連続テレビ小説「ちゅらさん」再放送

2026 [令和8年]

- 首里城正殿復元(予定)



完成イメージ図(提供:国営沖縄記念公園事務所 首里出張所)

2025 [令和7年]

- 大阪・関西万博(予定)

## 総務部

### ■ 総務・経理課

持続可能な組織の安定的な運営を目指し、組織横断的な取り組みや職員の働きがいを創出していくことに取り組んでまいります。また、観光関係機関との連携を強化し、広域連携DMOとして観光地経営の司令塔を目指してまいります。

- 1.組織運営
- 2.賛助会員事業
- 3.広域連携事業
- 4.職員の働きがい創出
- 5.その他、組織横断的な取り組み



## 企画・施設事業部

### ■ 企画課

観光危機管理、DMO、OCVB News、デジタルマーケティング等の事業を展開するとともに、観光業界の諸課題解決に向けた組織横断的な取り組みを行います。また、組織に関する情報や各部・事業所の事業内容について、OCVBウェブサイトや記者懇談会を通じて広く発信します。

- 1.広域連携DMO機能強化
- 2.組織広報
- 3.観光危機管理体制構築支援事業・安全な沖縄観光地づくり事業
- 4.沖縄観光大使事務局運営
- 5.事業所との連携



### ■ プロジェクト推進室

第6次沖縄観光振興基本計画「世界から選ばれる持続可能な観光地」への方針(人泊数・消費単価向上の指標、サステナブル・レスポンスブルへの転換)の体現化に向け、OCVB内の組織を横断した体制構築を行い、沖縄の観光業界全般の課題解決を図ります。

- 1.観光目的税(宿泊税)への取組
- 2.沖縄リゾートワーケーション推進への取組
- 3.SDGs(持続可能な開発目標)推進への取組
- 4.国関連事業への対応



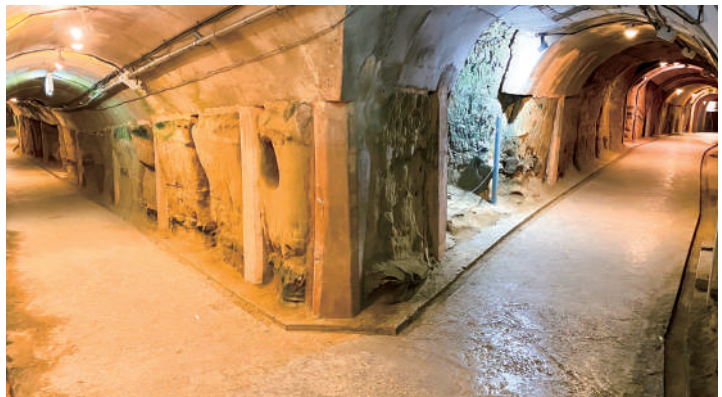
## ■ ブセナ海中公園事業所

稀少なサンゴや色彩豊かな魚類が豊富に生息しており、沖縄海岸国定公園の『海域公園地区』に指定されています。紺碧の海中を満喫できる全天候型パノラマ海中展望塔や色鮮やかな熱帯魚の楽園を船上から俯瞰体験のできるグラスボートを管理運営しています。



## ■ 旧海軍司令部壕事業所

沖縄訪問目的の「平和学習」、「慰霊参拝」を受け入れるために当財団の前身「沖縄観光開発事業団」によって再開発された県内初の観光施設。先の大戦で日本海軍司令部基地として使われた地下壕を当時のままに保存し、約2万坪の敷地内には戦争資料館や慰霊之塔、遊具広場等を備える都市公園を複合的に有しており、悲惨な戦争の歴史を学び「恒久平和を祈念する地・沖縄」としての情報を発信し、平和学習・戦跡地参拝客の需要喚起を図り「平和で豊かなおきなわ」づくりに貢献します。



## 海外・MICE事業部

### ■ 海外プロモーション課

高付加価値で質の高いインバウンド観光を促進し、海外における国際観光地としての認知度を向上させるため、空路と海路および誘客と受入の両方において各市場の特性に応じた戦略的な活動を展開します。また、外国人観光客に関する様々なデータ分析を通じて、課題の抽出・改善を図ることで、持続可能な国際観光地を目指します。

1. 沖縄観光グローバル事業
2. 戦略的クルーズ観光推進事業



## MICE推進課

「沖縄MICE振興戦略」に基づき、国際ビジネスネットワーク拠点の形成とMICE開催地としてのブランド確立をめざし、産学官連携のもとオール沖縄でのサステナブルなMICE誘致促進・開催支援・受入整備に取り組みます。

1.MICEの誘致 2.MICE開催支援 3.MICE受入整備

※MICEとは/Meeting(企業等の会議)、Incentive Travel(企業等の報奨旅行)、Convention(国際機関・団体、学会等が行う国内・国際会議)、Exhibition/Event(展示会、イベント)の頭文字をとった造語です。



## 沖縄コンベンションセンター

OCVBは沖縄コンベンションセンター(以下「OCC」とします)が誕生した1987年から33年間に渡り管理運営を担ってきました。令和5年度より共同事業体の一員として、関連団体や地域との連携を図り、沖縄県内で唯一の複合的大型MICE施設を最大限に有効活用し、沖縄県のMICE推進に貢献します。



## 国内事業部

## 国内プロモーション課

広域連携DMOとして、データを活用したプロモーション立案及び観光関連団体と連携し、一般観光を中心に離島やスポーツなどのコンテンツを訴求するプロモーションを行います。消費単価の向上・滞在日数の延伸・年間誘客の平準化・環境や地域への配慮などを踏まえたプロモーション展開により、世界から選ばれる持続可能な観光地を目指します。

1.国内需要安定化事業 2.離島観光活性化促進事業 3.スポーツ観光戦略的誘客促進事業  
4.観光情報センター事業 5.沖縄観光誘致対策事業



## 東京事務所

OCVB東京事務所では、首都圏の旅行市場動向の調査、観光・教育旅行・MICEの誘致宣伝活動を行っています。

首都圏を中心に開催されるイベントとの連携、また沖縄の旬な情報を発信することで沖縄への誘致促進につなげます。



1. 旅行市場の動向調査
2. 沖縄情報センター機能
3. 一般観光誘致、MICE、修学旅行セールス活動
4. 沖縄関連企業や団体との事業連携

## 受入推進課・人材育成センター

「世界から選ばれる持続可能な観光地」の実現に向け、「人材育成」と「地域連携」を大きな柱とし、『観光客の満足度向上』、『リピーターの獲得』、『国際観光地としての評価向上』、『受入体制の充実』を図るとともに、沖縄観光産業の地位向上と持続的発展を目指します。また、「観光人材育成センター」機能を強化し、観光人材の育成及び確保の促進を図ります。

1. 教育旅行推進強化事業
2. 修学旅行需要分散化促進支援事業
3. フィルムツーリズム推進事業
4. 沖縄県観光協会等協議会関連事業
5. 観光人材育成・確保促進事業



## 70周年記念写真

本社・各事務所・事業所 職員



■沖縄観光コンベンションビューロー 職員



■プセナ海中公園事務所 職員



■旧海軍司令部壕事業所 職員



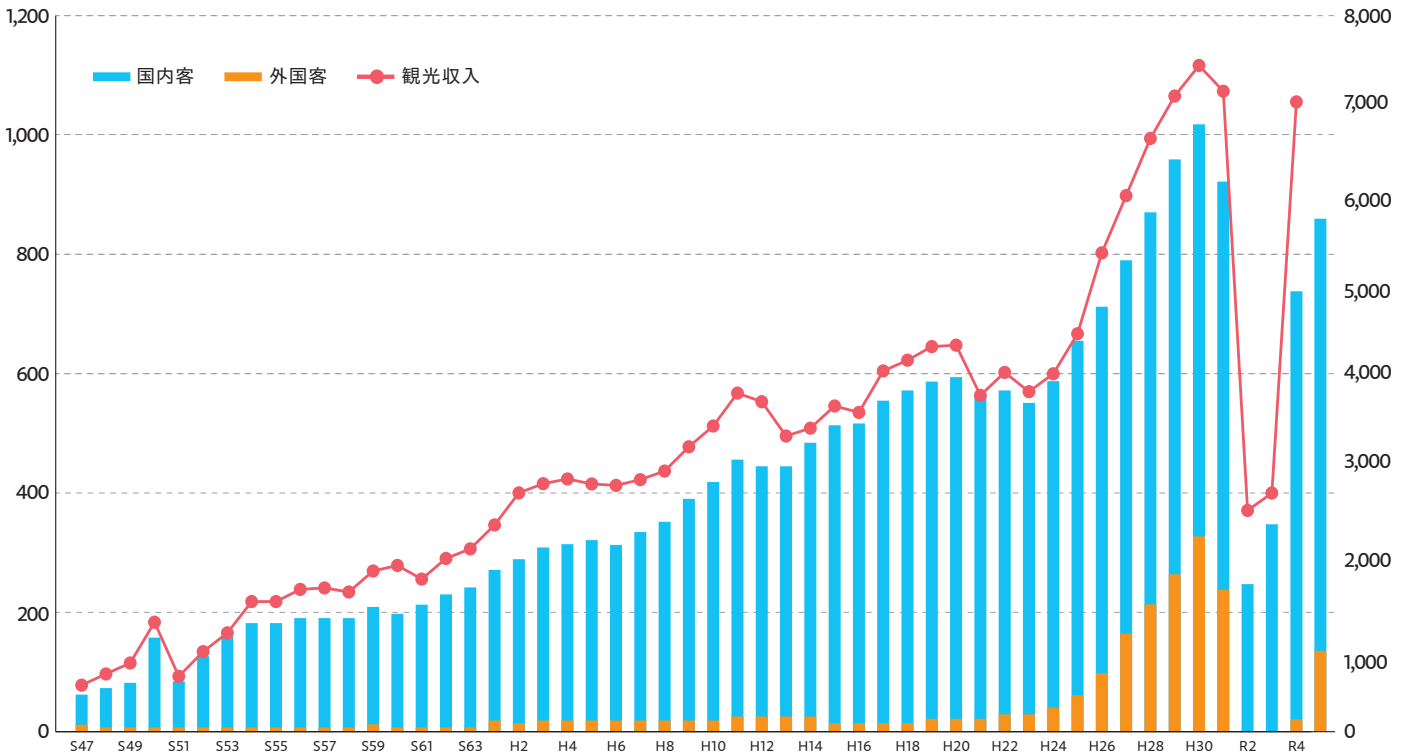
■東京事務所 職員



■OCC 職員

## 【観光客数と観光収入の推移】

入域観光客数(万人)

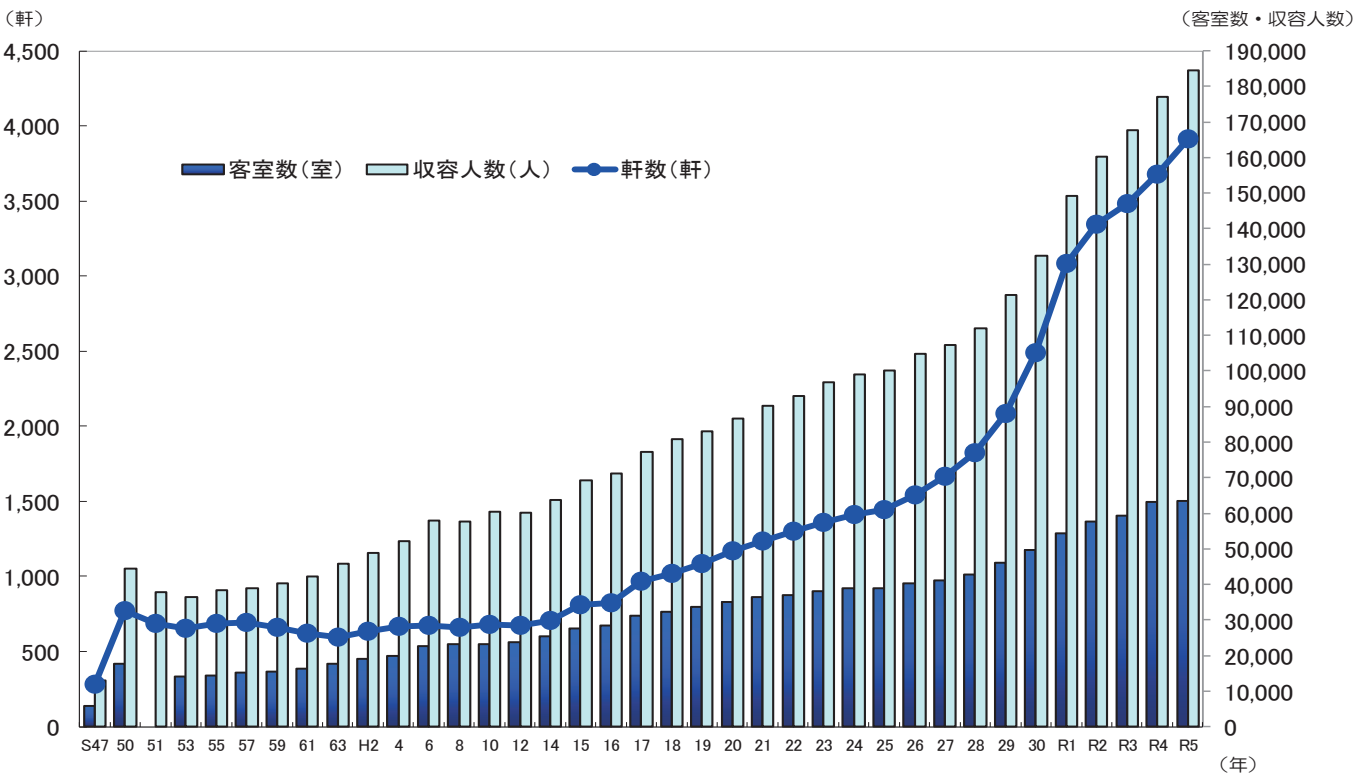


[出典:観光客数は沖縄県「観光要覧」、観光収入は沖縄県「観光統計実態調査」]

※観光収入は、平成18年度までは暦年の数値、平成19年度以降から年度の数値となっている。

※外国客には、特例上陸者を含む。

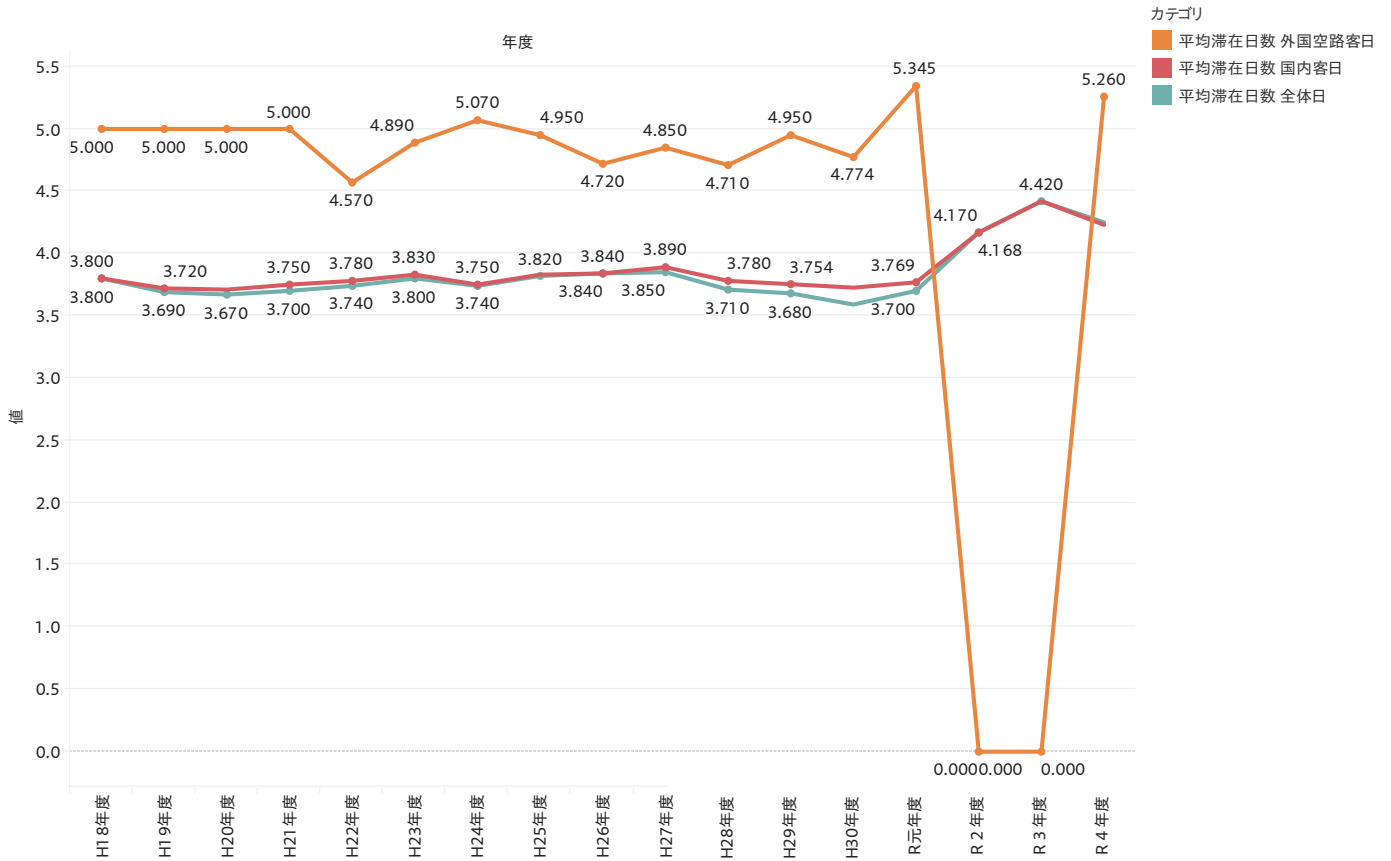
## 【宿泊施設等の推移(暦年)】



[出典:沖縄県観光要覧]

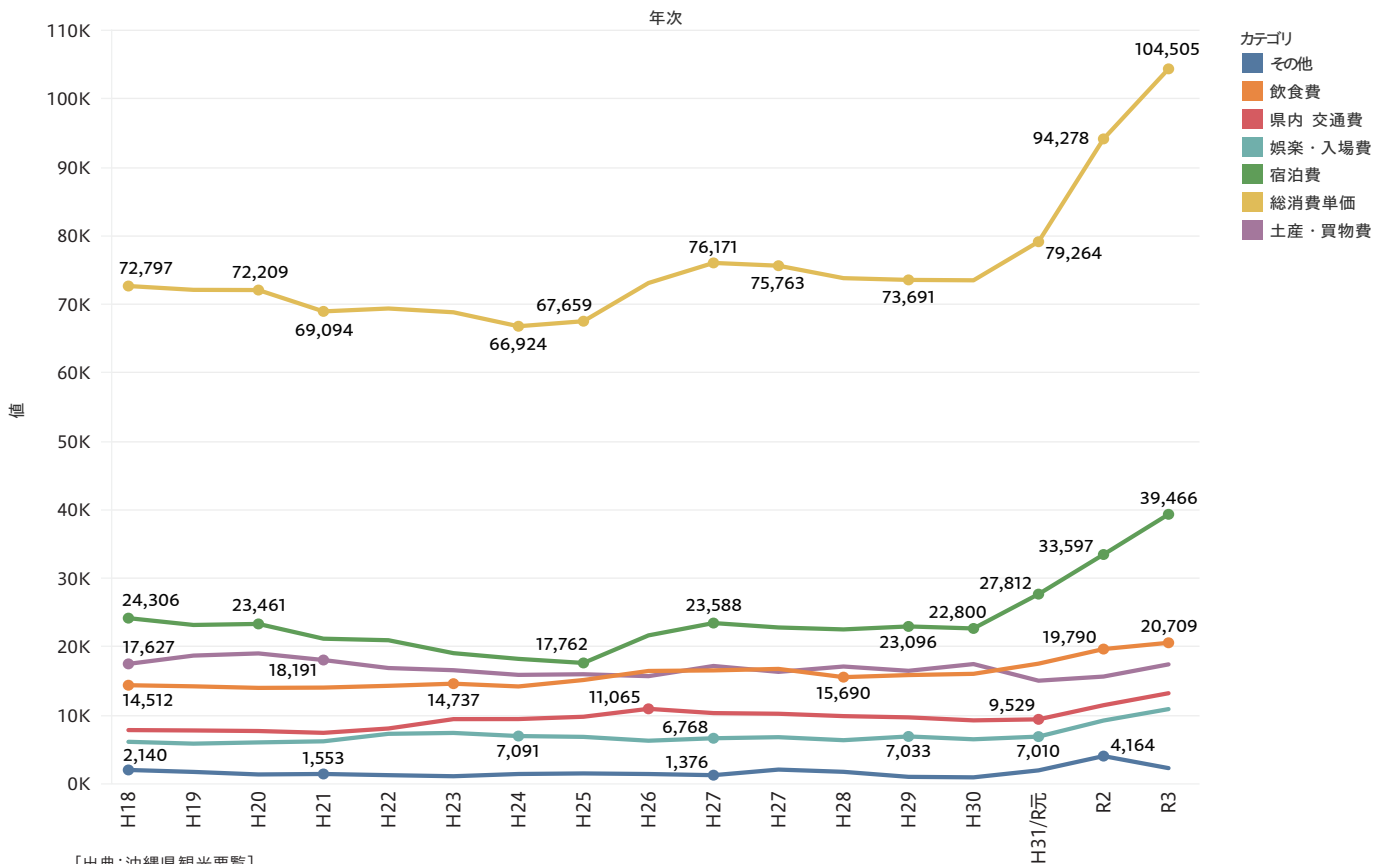


## 【観光客別平均滞在日数の推移(国内／海外空路)年度】



[出典:おきめぐり「沖縄県観光データ」]

## 【観光客一人当たり県内消費額の推移(暦年)】



[出典:沖縄県観光要覧]

## 【沖縄ツーリズム産業団体協議会】

- 設立年：平成30年6月
- 目的：本県における観光・コンベンションの発展拡大に関する具体的方策等を協議するため
- 団体・企業数：35

No	組織・団体名	No	組織・団体名	No	組織・団体名
1	一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー	13	一般社団法人沖縄リゾートウェディング協会	25	那覇空港国際線連絡会(AOCOKA)
2	一般社団法人日本旅行業協会 沖縄支部	14	沖縄県飲食生活衛生同業組合	26	那覇空港ビルディング株式会社
3	一般社団法人全国旅行業協会 沖縄県支部	15	日本航空株式会社	27	石垣空港ターミナル株式会社
4	沖縄県ホテル旅館生活衛生同業組合	16	全日本空輸株式会社	28	宮古空港ターミナル株式会社
5	一般社団法人沖縄県ホテル協会 沖縄支部	17	日本トランスオーシャン航空株式会社	29	一般社団法人那覇市観光協会
6	一般社団法人日本ホテル協会 沖縄支部	18	株式会社JTB沖縄	30	有限会社沖縄シブスエージェンシー
7	一般社団法人沖縄県バス協会	19	株式会社近畿日本ツーリスト沖縄	31	那覇港管理組合
8	一般社団法人沖縄県ハイヤー・タクシー協会	20	株式会社日本旅行沖縄	32	中部広域市町村圏事務組合
9	一般社団法人沖縄県レンタカー協会	21	東武トップツアーズ株式会社 沖縄支店	33	特定非営利活動法人美ら海振興会
10	一般財団法人沖縄美ら島財団	22	沖縄ツーリスト株式会社	34	PADI沖縄オフィス
11	一般社団法人美ら島観光施設協会	23	株式会社ジャンボツアーズ	35	沖縄観光飲食業の会
12	一般社団法人ジャパンショッピングツーリズム協会沖縄支部	24	沖縄都市モノレール株式会社		



## 【沖縄県観光協会等協議会】

■ 設立年：令和3年11月

■ 目的：本県における観光振興に関する具体的方策等を協議するとともに、必要に応じて集約した意見を国または県への要望等として進言する

■ 団体数：45

No	北部地区
1	(一社)本部町観光協会(沖縄北部地域観光協会)
2	(一社)国頭村観光協会
3	NPO法人 東村観光推進協議会
4	(一社)今帰仁村観光協会
5	(公財)名護市観光協会
6	(一社)宜野座村観光協会
7	(一社)金武町観光協会
8	(一社)伊江島観光協会
9	(一社)伊平屋島観光協会
10	(一社)いげな島観光協会
11	(一社)大宜味村観光協会
12	(一社)恩納村観光協会

No	中部地区
13	(一社)沖縄市観光物産振興協会
14	(一社)読谷村観光協会
15	(一社)うるま市観光物産協会
16	(一社)北中城村観光協会
17	(一社)北谷町観光協会
18	(一社)宜野湾市観光振興協会
19	(一社)中城村観光協会
20	(一社)嘉手納町観光協会
21	(一社)西原町観光まちづくり協会
22	(一社)北谷ツーリズムデザイン・ラボ

No	南部地区
23	(一社)那覇市観光協会
24	(一社)南城市観光協会
25	(一社)浦添市観光協会
26	(一社)南風原町観光協会
27	(一社)豊見城市観光協会
28	(一社)八重瀬町観光物産協会
29	(一社)糸満市観光協会
30	(一社)座間味村観光協会
31	(一社)南大東村観光協会
32	(一社)北大東島振興機構
33	(一社)渡嘉敷村観光協会

No	八重山地区
34	(一社)八重山ビジターズビューロー
35	(一社)石垣市観光交流協会
36	(一社)竹富町観光協会
37	(一社)与那国町観光協会

No	宮古地区
38	(一社)宮古島観光協会
39	(一社)多良間村ふしゃぬふ観光協会
40	(一社)いらぶ観光協会
41	(一社)池間島観光協会

No	久米島地区
42	(一社)久米島町観光協会
43	(一社)渡名喜村観光協会
44	(一社)粟国村観光協会
45	(一社)くめじまDMO

No	オブザーバー	奄美群島地区
1	(一社)奄美群島観光物産協会	5 喜界島観光物産協会
2	奄美大島観光協会	6 (一社)徳之島観光連盟
3	(一社)あまみ大島観光物産連盟	7 (一社)おきのえらぶ島観光協会
4	(一社)奄美せとうち観光協会	8 (一社)ヨロン島観光協会



おかげさまでOCVBは70周年を迎えました。



一般財団法人 沖縄観光コンベンションビューロー

〒901-0152 沖縄県那覇市字小禄1831-1 沖縄産業支援センター2階



OCVB ウェブサイト

<https://www.ocvb.or.jp>